

「明治新撰俳諧姿見集」について

横松 令奈*, 綿拔 豊昭**

A study of “Meiji shinsenhaikai sugatamishu”

Reina YOKOMATSU, Toyoaki WATANUKI

抄録

「明治新撰俳諧姿見集」は、明治十五年に俳諧宗匠である加藤東岡によって編纂され、キッコマン醤油創業者一族の一人、茂木房五郎によって出版された。またその撰には橋田春湖、近藤金羅、小野素水と当時の代表的な宗匠が関わっている。また春湖と素水は序文を著し、金羅は題字を記している。「明治新撰俳諧姿見集」は乾の巻と坤の巻から成る。乾の巻は発句が、坤の巻は前句付けが収録されている。坤の巻には「人名録」が付されている。

「明治新撰俳諧姿見集」は、これまで特に注目されてこなかった類題集である。しかし、以下の二点から、研究資料として重要なものと評価できる。

- ①当時の俳人の住所を知ることが出来る「人名録」が付されている俳諧の類題集として重要なものである。
- ②下総野田地方の文化資料として重要なものである。

Abstract

“Meiji shinsen haikai sugatamishu” was edited in 1882 (Meiji 15) by Toko Kato, who was haiku master, and it was published by one of the Kikkoman soy sauce founding families, Fusagoro Mogi. In addition, haiku were collected by Shunko Kitsuda, Kinra Kondo, Sosui Ono they was a then representative haiku master. Moreover, Shunko Kitsugda and Sosui Ono wrote the foreword and Kinra Kondo wrote the title.

The first 17-syllable verses of a renga are recorded in the first volume. And Maekuduke (the shortest form of the renku) and “Directory” are recorded in the latter volume.

“Meiji shinsen haikai sugatamishu” is “A similar title collection of haiku” which did not attract attention so far. But it is important as a research material from the following two points.

- 1) It is important because it includes “who’s who” which you can know the addresses of haiku poets in the Meiji period.
- 2) It’s important as cultural material in Shimousa Noda area.

* 筑波大学大学院図書館情報メディア研究科博士前期課程
Master’s Program
Graduate School of Library, Information and Media Studies,
University of Tsukuba

** 筑波大学大学院図書館情報メディア研究科
Graduate School of Library, Information and Media Studies,
University of Tsukuba

はじめに

明治維新以後の俳諧を、時期で区分した場合、明治初年から明治二十五年までが「変動期」といわれる。明治五年の太陽暦の採用、明治七年の教導職の設置などが、俳壇に大きな衝撃を与えたからである。それにもかかわらず、明治二十六年に、正岡子規が、芭蕉の偶像を破壊し、古い俳諧を攻撃するまでは、俳諧師の意識の変革はあまり見られず、幕末以来の俳風は変わることがなかった。そのため文芸的な評価は低く、この時期の俳諧が研究対象として取り上げられることは稀である。

しかし、文芸面での評価は低いものの、江戸時代に引き続き、この時期も、全国的に俳諧を嗜む者は多く、一つの文化を形成していたとあってよいだろう。たとえば多くの俳諧集、俳諧雑誌が出版されて、いわゆる出版文化を形成していた。そうした俳書等の中には、いまだ内容等が紹介されていないもの、どのような地方の人が俳諧に関わっていたかを知る上で注目してもよいものがあると思われる。

本稿では、その一つとして「明治新撰俳諧姿見集」をとりあげたい。なぜならば、一つには人名録が付されており、当時の俳人の住所を知りうる資料であり、一つには、下総野田地方の文化を考えるにあたって看過できない茂木房五郎の事蹟の資料となりうるからである。

1. 書誌等

まず「明治新撰俳諧姿見集」(明治十五年刊)の書誌等について述べる。

小本二冊、木版、和装、袋綴。料紙は楮紙。乾之巻は全一一二丁(遊紙なし)、坤之巻は全五十三丁(遊紙なし)。

表紙は、「しぼ」のある白地に、朱色の題簽が左肩に貼られ、双边の枠の中に「明治新撰 俳諧姿見集 乾(坤)」と刷られている(「明治新撰」は角書き)。巻首題、目次題、尾題、すべて同じ題である。

乾之巻の見返しは、題簽と同じ朱色の料紙を使用。鳥が二羽描かれている。これは、後で述べるように、本句集が恋の句を集めたものであるため、恋するつがいの鳥を描いたと考えられる。見返し絵の右肩に「叟齋 [関水] (陰刻)」とある。この絵を描いた者であろう。

一丁めは、夜雪庵金羅による題字と句である。以下のようにある。

雨吟

明治新撰

俳諧姿見

集 夜雪書 [金] [羅] 表

先ひらく 金羅

花の [夜] [雪]

たよりや

懸想文 裏

二～三丁めは、明治十五年六月付けの春湖の序文(後掲)。

四丁めは、明治十五年八月付けの素水の序文(後掲)。

五～九丁めは、「乾之巻目次」。

十丁めからは本文。

坤之巻の見返しは、共紙。

一～四十二丁めは本文。

四十三丁めは、明治十五年七月付けの東岡の跋文(後掲)。

四十四～五十二丁表は、「いろは」順の「人名録」。「明治新撰俳諧姿見集」は故人の句もおさめられているが、「人名録」では故人が除かれている。当時の俳人を知るうえで有益な資料であるので、巻末にその翻刻を載せる。俳人は、本州の居住者が大半をしめている。

五十二丁裏は刊記(後掲)。

2. 序・跋

「明治新撰俳諧姿見集」の成立事情については、序・跋によって知ることができる。以下、春湖序、素水序、東岡跋をあげる(／は改行、／＼はおどり字を意味する)。

①春湖序

代々の撰集に極めて恋の歌／を載て連哥俳諧はかまへて／恋の句をなすこそ常式なり／うき世の人のうきもたのし／きも貴き賤き賢き愚なる／情態とりこめて此一筋にあり／東岡梅雄の両兄茲に／おもふ事有て此こゝろ姿見／集といふを編述せり通して／皆恋の句なり古くは梅翁／蓼太か恋百韻あれとも／恋の句集至りては寥々見る／こそなし両兄か斯集所謂嚆／矢なるものにやしかはあれとも古今ニ／わたりて恋の発句いと／＼稀／にて歌道にかはりめあるは附句／に遊ぶ所なればなるへし是／選者か苦める所なり姑季詞に／便き字ものを拾収して類を分／ち一部とせり疾く木に上して／世の作者達をたすけよといふ／明治十五夏六月／春湖

②素水序

諾冊両柱の大神磯馭廬島に降居在し／始て交婚を知給ひ

しより恋の道充ち／広こりて森羅万象繁殖す大哉恋至／
哉我俳諧におも又恋をもて大切とし／一卷の眼目にす
るなり爰に茂木梅雄／加藤東岡の両子こたひ恋の句をあ
つ／めて姿見集と号け且先輩のあつ／めおける古今連句
の字花より拔出し／たる恋の句を附録として世に公け／
することゝはなれり／実に俳諧恋の／句を作るの良材初
学進打のしつ／きをしへしりともいふへきふみニこそ／
あなれ／明治十五のとし秋八月／月之本素水

③東岡跋

友を鏡とし銅を鏡とす／其賢愚凡夫の境にあらずと／雪
霜翁か俳諧小鏡の席に／述べられしも時移り世々に其／俳
移り行蕉風の道曇り／なきをこたひ又梅雄うし／此鏡の
恋に事よせ恋の／句を広く集めて時の流行変／化に移し
ます／俳諧の余情／を照らさむとて予に編集の研せよ
となり其言に任す／るといへとも素より艶なる／言葉を
さへ用ゆるを知らず／ましてや老の身の恋に草／するも
おもはゆく物うきまゝ／今有名の師達に聞せ乞ふ／て其
俣をよせるものから／俳諧姿見集とは名附／けらし／明
治十五年初秋／編集者 大垣園東岡述

まず③東岡跋により、茂木梅雄から大垣園東岡に恋の
句を集めるように依頼があったことが知られる。東岡は
恋の句を収集し、明治十五年七月には「明治新撰俳諧姿
見集」は完成した。後述の刊記には「六月十二日版權免
許」とあるので、このころには完成していたものと考え
られる。

また版權免許の申請時期に、編集している状況を春湖
に伝えていたことが①春湖序により知られる。出版するに
あたって、素水に知らされ、序が書かれたことになる。

3. 成立事情

①春湖序に「東岡梅雄の両兄茲におもふ事有て此こゝ
ろ姿見集といふを編述せり」とあり、②素水序に「茂木
梅雄加藤東岡の両子こたひ恋の句をあつめて姿見集と号
け」とある。春湖と素水は、「明治新撰俳諧姿見集」は
茂木梅雄と加藤東岡の共編と考えていたようであるが、
それぞれの役割については述べていない。③東岡跋によ
り、梅雄が企画し、東岡に編集を命じたものであったこ
とが知られる。

また坤之巻の巻末の刊記は以下のようにある。

明治十五年六月十二日版權免許
編集者 東京府平民 加藤重兵衛
府下神田区千代田町六十八番地
出版人 千葉県平民 茂木房五郎

府下日本橋区檜物町十三番地寄留

右の「加藤重兵衛」は加藤東岡の本名、「茂木房五郎」
は茂木梅雄の本名である。刊記は、③東岡跋に記されて
いたように、実際に編集にあたったのが加藤東岡であつ
たことを示している。

ところで乾之巻の巻頭に以下のようにある。

東 小築庵春湖
夜雪庵金羅 撰
京 月廼本素水
大垣園東岡 編輯

小築庵(橘田)春湖、夜雪庵(近藤)金羅、月廼本(小
野)素水の三人に「撰」とあるが、これは実際に「撰」
をしたわけではなく、いわゆる「権威付け」と思われる。

出版人茂木房五郎は、下総野田の出身で、茂木家は醬
油醸造(後の「キッコーマン」)で知られる。『財団法人
興風会図書館の五十年』(平成三年、鈴木英二、財団法人
興風会)に拠れば、昭和四年に茂木家は野田市の社会
強化を目的とし、財団法人興風会を設立。その事業の一
つとして図書館事業をとりあげ、興風会図書館を設置、
野田地方の文化に大きな足跡を残した家である。経済的
に豊かなこともあって、当時の代表的な宗匠に題字や序を
記してもらい、出版することができたものと考えられる。

『房総俳諧狂歌集成』(昭和六十三年、鶴岡節雄、国
書刊行会)及び、『房総文学事典』(昭和五十三年、荒川
法勝、東京学芸館)に拠れば、江戸後期の狂歌師・茂木
千興(柏樹園千興)や、明治期に高浜虚子に師事した俳
人・茂木狐杉らが出ている。さらに房五郎が「明治新撰
俳諧姿見集」の出版に関わっていたことが今回判明し
た。また人名録により野田の俳人の句も掲載されること
がわかり、この地方の注目すべき郷土資料と位置付ける
ことができよう。

「明治新撰俳諧姿見集」乾の巻には八百二人の句がお
さめられている。上位は、二十七句が収録された其角、
以下、二十五句の芭蕉、二十句の守月となる。其角、芭
蕉は、その名声に比例するものであろうし、資料も多
かったからであろうが、越中福光の俳人守月が多いのは
不明。このことに関しては今後の課題としたい。

4. 内容

「明治新撰俳諧姿見集」は、前掲の序・跋にもあるよ
うに恋の句を集めたものである。そのため書名に「姿
見」という恋を連想させる言葉を用いている。乾之巻は
発句を、坤之巻は前句付けを収録している。

乾之巻は、たとえば巻頭の三句までは以下のようにあ

る。

歳旦之部

一日 一日や夫婦別なる膳配り 了古
つくろはぬ妻も若やく日の始 梅林
去年今年 首尾つくる夢は誠か去年今年 梅雄

季節に分類し、頭に季題、そして発句をあげて、作者名を記す。この形式は、類題集の典型的な書式である。

乾之巻の構成は以下の通りである。

歳旦之部（季題三十三。句数九十）
春之部（季題八十一。句数五百二十八）
夏之部（季題百七。句数五百十八）
秋之部（季題百十六。句数四百八十五）
冬之部（季題八十四。句数三百九十一）
雑之部（季題なし。句数十四）

坤之巻は、前句付けで、たとえば巻頭部分は以下のようにある。

前句

ほそくすちより恋つのりつゝ

物思ふ身にももの喰へとせつかれて 翁

季題はなく、短句に長句を付けたものもあれば、長句に短句を付けたものもある。付句の作者は記されるが前句の作者は記されない。全五百四十四の句が掲載されている。

乾之巻に関しては、東岡は、まず恋の言葉を含む発句を二千二十六句収集し、それを、太陽暦に従った歳時記の区分の季題に従って分類したと考えられる。はじめに季題があって、その季節にあった恋の句を詠むための手引き書となっているのである。

坤之巻は手元にある連句作品から抜き出したものと思われる。

おわりに

以上のべたように、「明治新撰俳諧姿見集」は、一つには人名録が付されており、当時の俳人の住所を知りうる資料であり、一つには、下総野田地方の文化を考えるにあたって看過できない茂木房五郎の事蹟の資料として価値がある。

また恋の俳諧を詠むにあたっての資料として、伝統的なものなのか、独自性があるのか、などを視野に入れて考察することを、今後の課題としたい。

（附記）本稿をなすにあたり、貴重な資料の閲覧、御教示たまりました野田市立興風図書館にあつく御礼申し上げます。

（平成 22 年 3 月 30 日受付）

（平成 22 年 7 月 5 日採録）

明治新撰俳諧姿見集人名録

いノ部

武州白雪連／一要
武州越ガヤ／一水
岩キ泉／一堂
信ノ福シマ／一寿
信州高遠／一寿
下サノ田／一弘
信州保科／一外
羽前松程／一推
武州葛西／一蓑
上サ小沼田／一整
武州松伏／一松
東京芝伊皿子／一楽
志州トバ／一滴
武州カナ川／一瓢
武州カナ川在／一晴
上サ富津／一洲
下サノ田／一川
羽ゴ松嶺／一柳
羽ゴ松嶺／一水
羽前山形／一夕
信州イナベ／一舟
上サ大多喜／以文
上毛前バシ／他麿
上毛前バシ／逸鶯
信州高遠／遊月
下サ原木／遊月
下サ行トク／遊山
東京白雪連／逸山
羽ゴ松嶺／友我
武州カナ川／いせ女

ろノ部

信州福シマ／露江
下サ西海神／露明
東京八丁堀／露秋
上毛前バシ／魯口
武州ハンノウ／魯水
東京／魯堂
越中高ヲカ／芦川
下サカムラ／芦潮

因州鳥取／ろかく

はノ部

東京／梅年
 武州伊原／梅枝
 下サ行トク／梅窓
 岩キ泉／梅静
 下サノ田／梅林
 信州高遠／梅雅
 信州保科／梅一
 下サノ田／梅溪
 下サ行トク／梅園
 東京／梅呼
 下サノ田／梅山
 東京松坂町／梅遊
 下サ行トク原木／梅遊
 武州ワラビ在塚越／梅麟
 信州飯田／梅好
 越中高岡／梅龍
 小細連／梅旭
 武州千住／梅紅
 信州高梨／梅泉
 東京スルガ町／梅紫
 東京スルガ町／梅子
 青モリ八戸／榎奥
 長州赤間関／榎宿
 加ガ／柏葉
 武州臺ムラ／白興
 武州カナ川／麦里
 武州一ノ江／麦飯
 東京浅草／巴雪
 下毛中ラ／中範若
 武ノ大サハ／はるめ
 羽ゴ松嶺／伴栄
 駿州静ヲカ／巴丈
 東京／巴如也
 越中福光／波翠
 因州鳥トリ／馬逸
 岩代梁川／芳里
 下サ行トク／芳水
 岩キワタリ／芳塙
 因州鳥トリ／芳詞
 加州金サワ／方居
 下サホソノ／方僊
 武州一ノ江／芳雨
 越ゴ岡ノ／抱月

ほノ部

武州大サワ／豊民
 上サ小沼田／豊年
 武州カナカハ在太ゴウ／豊止
 下サチバ／豊粒
 羽ゴニツ井／朴斎
 下サ行トク／木納
 東京雪花連／僕々
 因州鳥トリ／木尾
 武ノカナ川スゲタ／甫彦
 下サ中サト／ト山
 東京／本柳
 羽ゴ檜山／母山
 青モリ八戸／北藤
 青モリ八戸／北峩
 青モリ八戸／北正

へノ部

武州越ガヤ／米荷
 下サ水カイ道／屁策

とノ部

下サノ田／東波
 常州太田／東暁
 東京チヨダ町／東岡
 常州太田／東々
 三州大平／兔春女
 上サ大タキ／登正
 岩代ユノムラ／十綱
 下サノ田／都泉
 東京牛込／豊〇
 上毛小坂子／吐海
 東京神田／藤子
 小舟連／都遊
 武州大サワ／董々

ちノ部

東京／竹秀
 岩キ泉／竹堂
 信州福シマ／竹甫
 下サスカノ／竹甫
 阿州東貞方／竹左
 下サ舟ハシ／竹郎
 美濃高富村／竹苗
 下サ原木／竹遊
 因州栗谷／竹風
 信州イナベ／竹斐
 東京本町／竹雅

岩代藤田／紐関
 下サ行トク／千賀女
 下サ水海道／遅月
 遠州相良／枕石
 武州ワラビ在塚越／中老
 上毛前ハシ／長康

りノ部

葛西芝又／涼坪
 東京西川岸／里得
 東京新川／里石
 武州クマカヤ／里桂
 東京北マキ町／里明
 上サ弥正／理丸
 東京檜物町／鯉友
 信州平穂／柳山
 羽ゴ松嶺／柳翠
 常州土ウラ／柳旦
 武州千住／柳湖
 東京神田／柳備
 信州福シマ／龍視
 岩キ泉／流水
 羽ゴ松嶺／林鳥
 越中氷見／流垂
 下サ行トク／林風
 常州土ウラ／利翁

ぬノ部

東京雪花連／ぬけ丸

おノ部

シツヲカ／乙彦
 下サ舟ハシ／於宝廻
 下サ行トク／雄喜
 北カイ道沢町／応井

わノ部

東京雪花連／和橋
 信州和ムラ／和水
 越中氷見／和勝

かノ部

武州カナ川／交三
 下サ下方／交文
 常州土ウラ／高里
 武州スナ川／可耕
 東京神田／可月
 下サ舟カタ／甘如
 越中高岡／甘唾
 東京銀座／嘉女

下サ行トク／嘉一
 羽ゴ松嶺／霞芳
 武州大サワ／霞昇
 岩代ヤナ川／霞嶂
 武州ツルミ／かね本
 武州スナ川／かをる
 下サ花ノ井／皎月
 東京銀座／亀次
 下サ舟形／介年
 下サノ田／角子
 武州小松川／金の家
 東京番町／閑雲
 因州栗谷／夏雲
 越中福光／幸農

よノ部

武州イハラ／よね女
 東京／よし原

たノ部

東京三サキ原／太年
 東京白雪連／たねき
 東京北サヤ町／田時雨
 岩キ古道／卓洲
 信州イナヘ／帯雨
 羽ゴ松嶺／稲里
 東京今川小チ／桃周
 東京三組町／唐通
 下サ行トク／鷗風

れノ部

羽ゼン尾花サワ／寥雨
 下サ舟ハシ／漣山
 武州内田カヤ／齡松
 東京中ハシ／了古

そノ部

東京ゴフク町／素水
 東京／素兄
 東京／素香
 信州飯田／素仙
 青モリ小タル／素更
 武州キサイ／素文
 羽ゼン左沢／素風
 武州キサイ／素月
 武州内田カヤ／素貢
 下サノ木サキ／素屋
 下サ行トク／窓旭
 武州ガモフ／その女

東京浅草／宗園
東京深川／双山
因州栗谷／袖丸
武州スカ川／尊節
尾州ナゴヤ／徂康

つノ部

東京三十ケンホリ／常丸
岩キヤナ川／露守

なノ部

下サ舟ハシ／南枝
下サ舟ハシ／南明

らノ部

東京三田／楽草
下サ舟ハシ／落葉
岩キ湯ノムラ／羅月
遠州相良／雷雪
東京浅草／蘭馨
下サ古河／蘭草
東京新川／蘭石
羽ゴ松嶺／浪波

むノ部

上毛クサツ／無雅句庵
イセ度曾／夢蝶

うノ部

東京／宇山
東京西ガシ／雲峰
信州三ツゝカ／雲老
武州白雪連／雲外
下サ中サト／雨后
下サ上蛇／雨柳
サヌキ上金クラ／雨水
下サノ木サキ／有隣
羽ゴ塩コシ／有木
東京馬喰町／有香
下サノ田／羽角
下サ流山／上原
下サチバ／卯の丸
三州上中シマ／梅丸
東京／梅雄

くノ部

上毛高サキ／空々
越中高岡／花亭
武州一ノ江／花遷
下サ銚子／花酔
東京愛宕下／花郷

下サ目吹／花泉
常州麻生／花友
東京ユシマ／花梢
羽ゴニツ井／鶴翠
越後水口／鶴巢
東京深川／花朝女
武州ウラ和／光霽
下サノ田／くら女
上毛前ハシ／倉女
東京松トミ町／薫旭
越ゴ岡ノ／くら女

やノ部

東京香風連／也足
東京初音連／やなき
上サ太タキ／奴山人
岩代ヤナ川／箭山
下サチバ／柳の家
東京日本ハシ／安丸
羽ゴ檜山町／野夫
東京／養花

まノ部

東京本町一丁目／松雄
上サフツ／松尾
武州ツルミ／膝美
下サ中サト／万友
下サノ田／万木
上毛石井／万山

けノ部

羽ゼン松程／月蕉
東京王子西ヶハラ／月香
下サハラ木／原遊
下サ舟ハシ／溪水
但馬銀山／桂心
常州土ウラ／桂山
武州ハンノウ／蛙水
羽ゴ秋田／月静

ふノ部

東京／文礼
越中福光／布尺
東京／扶山
信州南ミノワ／布精
東京／富水
信州福シマ／富哉
東京呉フク町／富士の家
下サ行トク／富喜

武州台ムラ／文友
 羽ゴヒ山／文友
 武州一ノ江／文翠
 信州福シマ／文雅
 下サ木マカセ／腹鼓
 下サカムラ／風馬
 羽ゴヒ山／風泉
 武州イハラ／楓橋
 武州正ノウ／不二
 東京／不仙
 北カイ道沢町／不平
 東京本町／ふさ子

こノ部

東京四ツ谷／呉仙
 羽ゼン谷地／五鳳
 土佐高知／五風
 三河上中シマ／五息
 下サノ田／五柳
 因州栗谷／五秀
 越中高ヲカ／五卓
 駿州中サト／五席
 東京／五三
 東京／五雄
 羽セン左沢／虎遊
 武州台ムラ／孤月
 下サ銚子／古豊
 越中氷見／古作
 羽ゴ秋田／康哉
 東京白雪連／悟友
 下サノ田／国香
 下サノ田／国正
 常州土ウラ／谷露
 東京都連／黒六
 東京松ヤハシ／小赤
 東京白シマ／言問
 上毛安中／呉羊

てノ部

信州西高遠／天年
 東京牛込／寺田
 下サ中里／釣月
 下サ行トク／潮勢
 常州麻生／朝風

あノ部

東京／愛海
 東京守雪連／あかた

上毛前ハシ／安雅
 信州井上／晏起

さノ部

武州イハラ／蒼州
 武州西ノ谷／斎志
 信州高遠／三菱
 東京浜松町／三笑
 信州ノ沢／三外
 因州鳥取西谷／三芝
 武乃カナ川本ゴウ／左山
 東京神田／さしう
 下サノ田／山蝶
 東京猿楽町／猿岳
 羽ゴ檜山／桜房
 越ゴ新カタ／茶遊
 東京浅草／杉條
 東京日本ハシ／蓑甲
 下サノ田／相栄
 東京ゴフク町／草山
 下サ上蛇／左瀨
 東京浅草／山隣

きノ部

東京ユシマ／金羅
 東京深川／菊雄
 下サ佐原／旭斎
 東京／其鸞
 東京／其流
 信州平穂／公雄
 信州イナヘ／蓑長
 武州ムギツカ／喜雨
 武州越ケ谷／喜有
 下サ中里／喜楽
 東京新川／喜石
 因州鳥取川端／喜亮
 下サ行トク／亀遊
 岩キ泉／亀水
 武州大サワ／亀一
 下サ上花ワ／亀遊
 岩キ泉／鬼外
 岩キ泉／鬼要
 信州福シマ／其伯
 羽ゴ松嶺／其竹
 羽ゴ松嶺／其徳
 因州栗谷／其曲
 信州保科／琴湖

上サ小沼田／曲定
 武州越ケヤ／玉星
 下サノ田／玉峨
 東京守雪連／季悦
 越中高岡／起吟
 越中高岡／起石
 上サ大タキ／起雄
 但馬銀山／起石
 越中高岡／義風
 下サ水海道／宮斎
 下サ銚子／奇孝
 羽ゴ秋田／淇山
 武州二合半／鳩雨
 羽ゴ秋田／奇峰
 越中福光／菊庭
 越中福光／錦坡
 常州水戸／帰来
 房州大山田／杏斎
 越中高岡／極窓
 越中高岡／吟水
 武州カナ川／磯月
 常州大山艶也ノ幼女／菊井女
 越ゴ岡ノ／亀石

ゆノ部

下サノ田／油泉
 下サノ田／幽谷

めノ部

信州スワ／明哉

みノ部

東京／幹雄
 東京／三千守
 武州イハラ／美保
 因州鳥取栗谷／美加子
 常州水戸／美知丸
 下サ上花ワ／美石丸
 上サ木サラス／味蕊
 岩キヤナ川／未格
 東京ツキ地／御舟潟

しノ部

東京深川サガ町／春湖
 東京／松塙
 東京／松瀨
 東京／芝友
 東京セト物町／謝徳
 東京スルカ町／春生

下サ中里／春柳
 武州カナ川／春荷
 上サフツ／春塙
 下サ行トク／秋月
 横ハマ元ハマ町／秋月
 東京雪花連／秋香
 伊豆柏谷／秋声
 下サ行トク／松月
 信州保科／松静
 武州大沢／松賀
 下サ舟ハシ／松葉
 三州上中シマ／松雪
 下サカムラ／松映
 下サノ田／松月
 武州塚コシ／松盛
 因州鳥取栗谷／松風
 武州ハラビ／松花
 越中高岡／松月
 東京／松三
 信州保シナ／寿好
 下サ原木／寿遊
 下毛藤岡／寿松
 武州千住／寿玉
 信州長沼／寿賛
 能ト輪シマ／守朴
 越中福光／守月
 東京浅草／止水
 武州イハラ／新山
 下サ行トク／心楽
 羽セン谷地／しう女
 下サ舟ハシ／酒山
 下サ舟ハシ／史明
 下サ行トク／しのふ
 武州大沢／若静
 武州川コヘ／如麿
 武州菖ブ／如柳
 武州菖ブ／如風
 東京番町／如鏡
 下サ行トク／紫雄
 東京呉フク町／若翠
 下サ行トク／正甫
 東京新川／真石
 下サノ木サキ／尋河
 上サ山ベ／自楽
 越センモリ田／勝猿

肥ゴ横シヨ／秀薫
 東京北マキ町／秀琳
 越中福光／逍遙軒
 羽ゼン尾花サワ／指月
 羽ゼン尾花サワ／湛々
 安房沼ムラ／雀児
 常州水戸／芷乙
 周防田シマ／自唱
 武州ワラビ／真松
 東京深川／七可
 岩キヤナ川／萩花
 下サ下方／志正
 越中氷見／子葉
 東京／似犀
 東京浅クサ／尚声
 羽ゼン山形北ムラ／觴山
 武州コシガヤ／親玉

系ノ部

東京下谷煉ヘイ町／永止
 下サ水海道／栄雅
 遠州相良／悦携
 常州土ウラ／艶也
 常州土ウラ／艶梅
 常州土ウラ／艶水
 武州行山白雪連／延寿

ひノ部

羽ゼン左沢／百谷
 武州キサイ／百足
 下サ中里／比輅
 東京新川／飛石
 下サ山サキ／日の本

もノ部

羽ゼン尾花サワ／黙語

せノ部

羽ゴ檜山／樵夫
 下サ管ノ／樵澗
 東京／笑宇
 東京／成雅
 下サ行トク／静海
 武州向ハタ／静雅
 東京三サキ町／静外
 下サセキヤド／静遊
 東京ユシマ竹町／静風
 東京新川／静之

武州大沢／清刹
 下サ舟バシ／清月
 越中高岡／精雅
 下サノヽ下／清流
 遠州相良／清藍
 下サチバ／精義
 東京ユシマ天神町／清玉
 武州千住／清流
 下サ木マガセ／川雪
 武州シノザキ／西村
 羽ゼン左沢／雪嶺
 下サ中里／雪花
 羽ゼン尾花サワ／雪里
 信州和ムラ／雪所
 東京白雪連／雪兮
 信州和ムラ／雪溪
 下サ舟カタ／晴月
 上毛セラ田／青我
 下サ松戸／菁莪
 武州千住／青我
 越中高岡／青縁
 武州川サキ／泉雨
 伊豆大土肥／石光
 遠州相良／整和
 羽ゴ檜山／扇風
 周防田シマ／善秀
 因州鳥取栗谷／洗耳
 因州鳥取栗谷／扇叟
 信州和ムラ／扇峰
 東京三崎町／千外
 信州和ムラ／勢和
 下サ古ガ／石泉
 東京竹川町／扇斎
 東京白雪連／是州

すノ部

越ゴ上田／翠嵐
 羽ゴ松嶺／翠月
 東京三崎町／翠月
 武州千住／翠河
 羽ゼン松程／酔花
 下サ行トク／寿々木
 下サチバ／水軒
 東京神田／巢友
 東京蛎壳町／巢光